

	I 初 級	II 中 級	III 上級、主任、設置者・園長
A 子どもの人権	子どもの人権 A 1-I:子どもと人権教育 ・さまざまな子どもへの対応の仕方 ・ノーマライゼーション ・子どもの人権を知る	A 1-II:子どもと人権教育 ・さまざまな子どもへの対応、人種、職業等「違いの扱い方」 ・ノーマライゼーション ・子どもの人権を守る	A 1-III:子どもと人権教育 ・人権教育論 ・子どもの人権を守る ・少年法 ・児童憲章の理解 ・ノーマライゼーション
	子どもの健康と安全 A 2-I:幼児の健康管理(健康チェック) ・視診、触診 ・家庭との連絡(子どもの既往症、持病、アレルギーの把握、配慮) ・身体測定、健康記録 ・健康衛生指導 A 3-I:子どもの安全 ・救急法(ケガ、人工呼吸など) ・安全指導、安全管理 ・自園の安全管理マニュアルの理解と確認 ・危機管理、危険予知(遊具・園庭・園外保育)	A 2-II:幼児の健康管理(健康管理実践) ・食育(栄養管理) ・園医等との連携 ・救急法(ケガの対処) ・保護者への健康・栄養指導 ・家庭への生活習慣指導 A 3-II:子どもの安全 ・小児保健(疾病含む)と校医との連携 ・防災管理、安全確認(遊具施設、設備) ・後輩への安全指導	A 2-III:幼児の健康管理(健康衛生対処法) ・伝染病の対処 ・施設の衛生管理 ・薬品管理 ・幼児の生活環境に対する分析と提言 A 3-III:子どもの安全 ・健康管理 ・責任者論 ・防災計画・訓練(マニュアル)の企画・立案・実施
	教師の役割 B 1-I:望ましい教師の姿 ・心構え 一般社会人としてのルール・マナーの理解 幼稚園教師としてのルール・マナーの理解 ・社会から期待される教師であることの認識と自覚 B 2-I:クラスと園の運営 ・教育要領の理解 ・自園の教育目標の理解 ・クラス担任の仕事の理解 B 3-I:教員の職務と研修 ・園務分掌(事務)の組織の理解 ・自己の分掌役割の自覚 ・勤務、就業規則の理解と遵守 事務、物品、教材管理への責任 B 4-I:指導要録の記載 B 5:個人情報取扱い	B 1-II:望ましい教師の姿 ・先輩としての心構え モデルとしての動き、見通しへの助言 学年としてのチームワークのあり方 ・後輩教師への共感的理解 ・幼稚園の教育史の理解 B 2-II:クラスと園の運営 ・教育目標の伝達、説明法 ・クラスを超えた保育の計画と実践 ・異年齢集団の指導法の研究 ・社会、保護者への説明 ・年間を見通したクラス運営 B 3-II:教員の職務と研修 ・教育実務 年間行事の把握と理解 クラスへの園行事展開計画 学年(縦割り)の実践研究 ・施設、備品(教材)の点検 B 4-II:指導要録の活用	B 1-III:望ましい教師の姿 ・保育者のアドバイザーおよび指導 ・カウンセリングマインドに基づいた対応 ・行事企画等の作成と運営と改善 B 2-III:クラスと園の運営 ・教育目標の継承と発展 教育目標到達度の評価 継承と発展のための努力事項の見直し B 3-III:教員の職務と研修 ・マネジメントへの理解 ・教育法規の理解 教育基本法、学校教育法、児童福祉法(総則) B 4-III:指導要録の管理 ・ブライパシーポリシーの作成
C 教育理論	子どもの発達理論 C 1-I:発達理論(基本編) ・2、3、4、5歳児の育ち 社会性の育ち、身体能力の育ち、知的育ち、ことばの育ち C 2:さまざまな思想・発達論と現代の保育(フレーベル、ペスタロッチ、ルソー、倉橋惣三、及川平治、橋詰良一、ピアジェ、ウィゴツキー、エリクソン、ワロン)	C 1-II:発達理論 (生まれてから小学校入学まで) ・0~6歳までの育ち 道徳性の育ち、自我・自己主張などの心の育ち、社会性の育ち	C 1-III:発達理論 (乳幼児期と児童期、思春期以降の関係性) ・思想、さまざまな発達論と現代の保育 ・乳幼児期と児童期、思春期以降の関係性の学び
	保育実践論 C 3-I:保育実践論 ・自由保育と一斉保育とは ・個と集団の理解 3歳児の学級運営 4歳児の学級運営 5歳児の学級運営 ・環境構成論	C 3-II:保育実践論 ・子どもの関係性を促す学級経営 ・さまざまな保育の形態と視点① 縦割り、横割り、斜め割り チーム保育 預かり保育 満3歳児保育	C 3-III:保育実践論 ・子どもの関係性を促す学級経営論 ・さまざまな保育の形態と視点② 子ども同士の関係性の中での遊びと学び(協同的な遊びと学び) 満3歳児保育と4年保育 ・諸外国の保育の方法
D 幼児理解	子どもの育ちと記録のとり方 D 1-I:発達理解(事例研究) ・ケンカ、母子分離 一人遊び~協同遊び、集団遊び、ごっこ遊び D 2-I:育ちの記録(取る) ・個人記録 ・保育日誌	D 1-II:発達理解(事例研究) ・協同的学び ・異年齢交流 ・保育指針の理解 D 2-II:育ちの記録(利用する) ・日誌からエピソードへ ・保護者への伝達(家庭への生活指導) ・他の保育者への伝達、情報の共有 ・集団の記録	D 1-III:発達理解(事例研究) ・遊び理論の確立(園のリーダーとして) ・学童期の発達理解 D 2-III:育ちの記録(生かす) ・園内研修(ケース会議) ・園内研修のリード ・保育へのフィードバック ・保育理論の構成 ・自園の保育の構成
	特別支援教育(含広汎性発達障害) D 3-I:障がい児保育理解 ・障がいの基礎知識 ・障がい児保育の実践基礎 D 4:障がい理解教育	D 3-II:障がい児保育実践 ・専門機関、家庭との連携と保育計画	D 3-III:障がい児保育支援 ・小学校との連携 ・保護者支援 ・園内のバリアフリー構想

	I 初 級	II 中 級	III 上級、主任、設置者・園長		
E 保育の計画と実践	教育要領と指導計画 E 1-I:保育現場を踏まえた5領域 ・教育要領の理解 ・領域(健、環、言、表、人)(ねらい、内容の理解) E 2-I:教育課程と指導計画の理解 ・教育課程(カリキュラム)と指導計画(プラン)の違い ・自園の教育課程の理解 E 3-I:指導計画・保育記録の理解と作成 ・指導計画の理解(年間カリキュラムから日案) ・指導計画の作成(月案、週案、日案) ・保育記録の理解 ・記録の作成 ・保育の構造、過程の理解 ・計画→実践→記録→評価→反省	E 1-II:保育現場を踏まえた5領域 ・領域(相互の関連) ・実践編(計画作成含む) E 2-II:自園の教育課程を元にした指導計画の作成 ・カリキュラムと自分の計画のすり合わせ ・子どもの実態と教育課程のすり合わせ E 3-II:保育記録に基づいた評価と計画 ・各種の記録の理解法 ・記録の活用(保育の評価と幼児理解) ・長期の指導計画の作成(期・学期・年間) ・個人記録と集団の記録 ・記録(エピソード)のカンファレンス	E 1-III:保育現場を踏まえた5領域 ・自園の実践の評価と提言(ねらい、内容の達成) E 2-III:子どもの実態に基づいた教育課程の編成 ・教育課程の編成の見直し E 3-III:園内のリーダーとしての計画・記録・評価の指導 ・指導計画立案の指導 ・記録の読み取りの指導 ・評価方法の研究と指導		
	保育の実践 E 4-I:領域「環境」と教師の環境構成 ・自然、人間関係、遊びの発展 ・室内(壁面、遊びのコーナー、季節感、作品展示、絵本、おもちゃ) ・室外(遊具、樹木、草花等)・飼育、栽培 E 5-I:基本的な保育技術の習得 ・集団を引きつける技術(話し方、手遊び) ・ことばかけ ・実技研修(運動遊び、集団遊び) E 6-I:各種の教材理解 ・興味や関心に応じて、発達に即して、ねらいに沿って、人間関係の広がりや深まりを視野に入れて ・造形遊び、表現遊び、音楽遊び、伝承遊び	E 4-II:園全体の環境構成 ・環境と幼児の活動の生まれ方 ・環境による保育 ・園内環境 E 5-II:場に応じた保育技術の生かし方 ・保育技術の開発と研究 ・材料の提示、間の取り方、的確なことばかけ ・個々の子どもに合わせた(微調整された)保育 ・園全体、学年などの大きな集団の保育 E 6-II:幼児の活動と教材 ・幼児の活動と教材の関係の理解 ・教材づくり(開発と研究)	E 4-III:子どもの発達を見通した環境構成 ・園外環境の調査と活用 ・地域の文化資源、文化資本の発掘と活用 E 5-III:保育技術の確立と指導 ・園内文化の継承と蓄積(ミッションとドキュメンテーション) ・保育技術の分析と評価 ・エキスパートとして後輩に保育技術の指導 E 6-III:教材研究 ・園内の教材プログラムづくり(絵本、紙芝居、童謡、お話・伝承遊びなど) ・教材観の構築 ・園内文化の蓄積、継承、創造		
	自己点検・自己評価と研修 E 7-I:保育の振り返りと保育の公開 ・自己の保育への気づき、反省、再確認 園内研修、ビデオ研修 ・保育参観のもち方 保育参加、親子交流 E 8-I:自己点検と自己課題の発見 ・各園独自の自己点検自己評価項目のチェック ・自己への気づき、反省 ・自己課題の発見 E 9-I:保育のレベルアップを目指して ・初任者研修への参加 ・自己の保育のモデル探し	E 7-II:保育を伝える・学ぶ・広げる ・保育の公開場面での援助、フォロー、補足、支持的学び合いの風土の醸成 ・他者の保育からの学び、評価 ・自己の保育の伝達力育成 ・小学校教育の理解 E 8-II:自己点検と学年・グループにおける保育の改善 ・教師としての自分の再構築 ・学年、グループにおける保育の改善の提案 E 9-II:学び続ける保育者として保育リーダーとして ・実践主体者として研修課題を立案 ・中堅研修への参加 ・改善への積極的取り組み ・初任者へのアドバイス	E 7-III:保育の公開と交流 ・公開保育の立案、実行、自己開示を可能にする場の醸成 ・交流の成果のまとめと分析、実践化 ・同僚性の醸成 ・小学校、社会への幼児教育についての伝達 E 8-III:園としての保育の自己点検、評価、目標設定 ・結果分析、評価、評価の観点 ・園全体の改善のためのアクションプランの構築と推進 ・第三者評価の研究 E 9-III:学び続ける保育者集団を目指して ・研修の立案、実施、評価、指導 ・改善点を園長・設置者に提案 ・保育アドバイザー的人材の育成 ・外部アドバイザー的人材探し ・研修法の研究 ・積極的な外部研修への参加		
		E 10:日々の実践からの積極的な学びの姿勢			
	F 地域、家庭支援、教育相談	保護者とのコミュニケーション F 1-I:保護者とのコミュニケーション ・家庭への連絡方法等の基礎 ・コミュニケーションのとり方 F 2-I:保護者の気持ちの受け止め方 ・親とのスムーズな関係づくり ・人間関係の認知と感情・態度	F 1-II:保護者とのコミュニケーション ・文章表現法を学ぶ ・コミュニケーションの相互作用を知る F 2-II:保護者の気持ちの受け止め方 ・親の気持ちの受け止めと理解 ・保育における相談の特異性の理解 ・家庭援助論の理解	F 1-III:保護者とのコミュニケーション ・園の方針等を明確に伝える技術 ・園のアイデンティティを探る ・幼稚園運営における父母の会の活動のあり方 F 2-III:保護者の気持ちの受け止め方 ・親の勇気づけ ・共助システムの構築 ・望ましい家族の姿の模索 ・虐待ネグレクトの理解と支援、関連機関との連携	
		家庭教育における保護者支援 F 3-I:家族の姿の現状を知る ・生育暦と生育環境への理解 ・その子の良さの発見 ・現代社会での家族の特性 ・虐待ネグレクトの理解 F 4-I:子どもへの接し方 I ・ほめ方、叱り方の指導援助の学び	F 3-II:家族の姿の現状を知る ・親子支援の方法 ・虐待ネグレクトの理解と支援 F 4-II:子どもへの接し方 II ・しつけ等の指導の実践 ・子どもの育ちの肯定的とらえ方の指導 ・子どもに対する共感的理解の指導	F 3-III:家族の姿の現状を知る ・親の勇気づけ ・共助システムの構築 ・望ましい家族の姿の模索 ・虐待ネグレクトの理解と支援、関連機関との連携 F 4-III:子どもへの接し方 III ・カウンセリングマインドに沿った教育観の構築	
		地域との連携 F 5-I:地域社会との交流を考える ・地域社会との交流の意義と実践	F 5-II:地域社会との交流を考える ・地域社会との交流の具体的方法論	F 5-III:地域社会との交流を考える ・地域活性化のために幼稚園ができる活動とは ・地域社会の各種団体、関係機関との連携 ・幼児教育センター構想の実現	
			F 6-I:幼保小の連携 I ・連携の必要性を考える ・保育観、教育観の理解	F 6-II:幼保小の連携 II ・連携の具体的方策 ・連続性の視点のとらえ方 ・幼稚園の良さの発見	F 6-III:幼保小の連携 III ・幼稚園のアイデンティティの確立と発信 ・連続性の視点のとらえ方 ・子どもの学びや育ちの連続性を発信する